

八戸工業大学での
取り組み報告



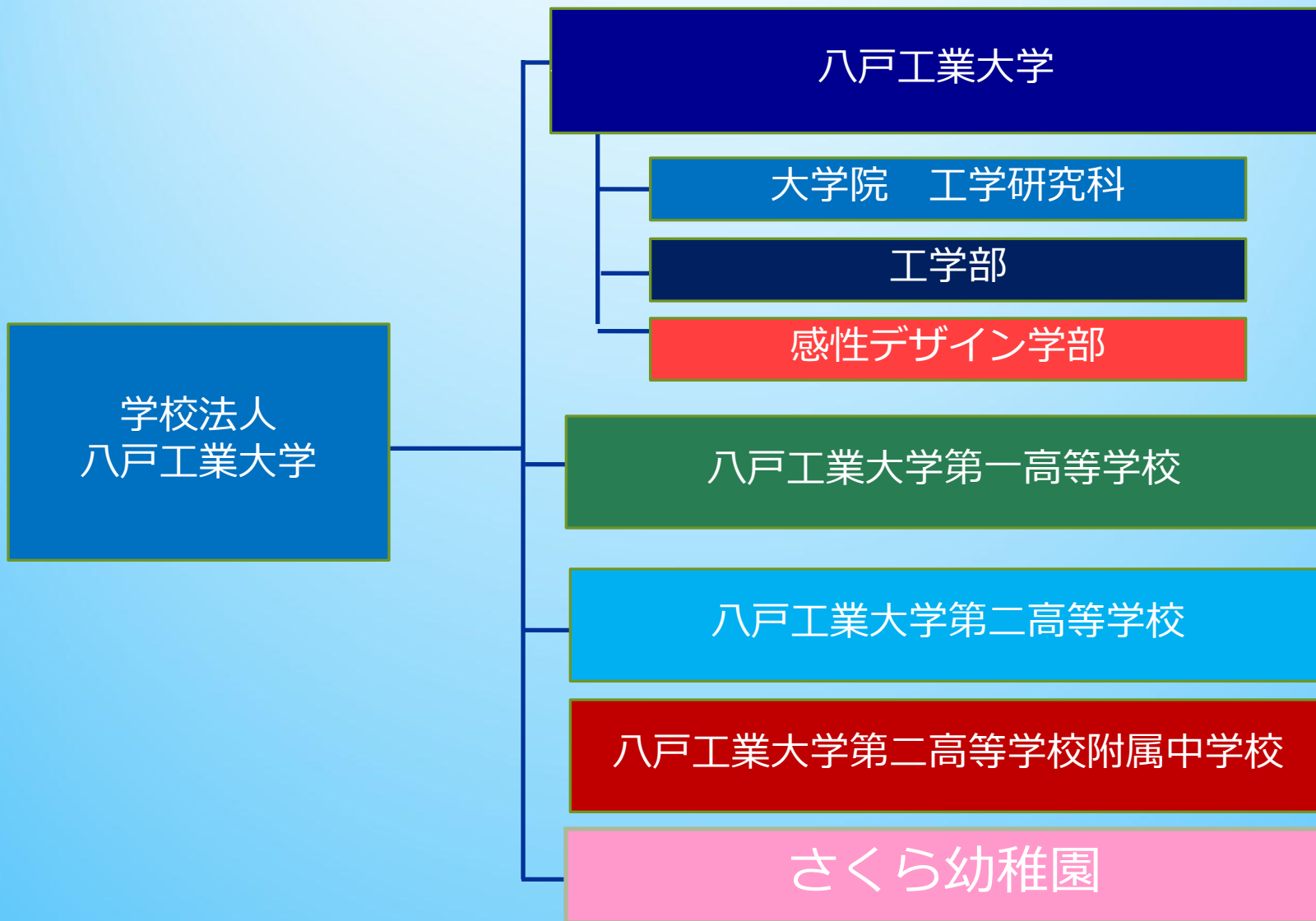
説明資料の構成

1. 大学側の出席者
2. 八戸工業大学の概要
3. 事業推進体制と活動状況について
4. 現在の大学の状況について
5. 学部・学科の再編計画
6. ご質問への回答
7. 今後の活動

大学側の出席者

- 船崎健一 学長
- 阿波 稔 学長補佐
- 金子賢治 学長補佐
- 高橋 晋 入試部長
- 吉田忠一 総務部長
- 事務部
 - 大野和弘 (社会連携・研究推進部参事)
 - 竹本成喜 (総務課長)
 - 長根 大 (総務 情報・経営企画)

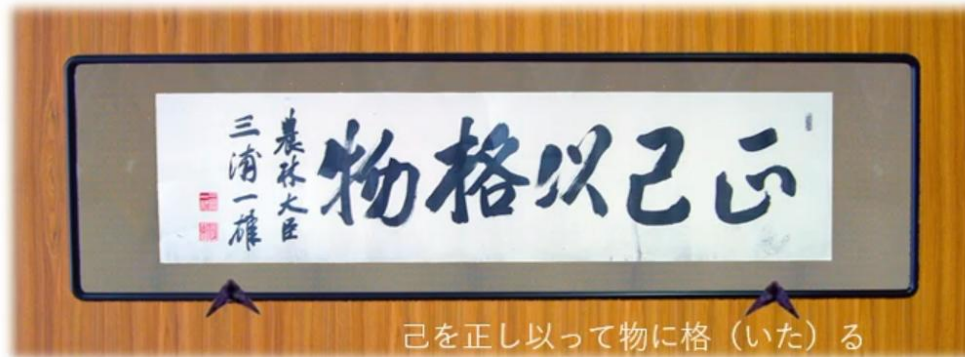
学校法人 八戸工業大学



建学の精神



学校法人八戸工業大学の建学の精神



物の道理をよく見極め、広く知識を求め、社会における自己の役割が如何なるものかを深く認識し、高い倫理性をもって行動すること



儒教の根本精神：仁義礼智信
四書五経



三浦一雄(くにお)氏
第二次岸内閣農林大臣

八戸工業大学

沿革

1972年 4月 開学 (1学部3学科)

1995年 4月 大学院 修士課程 設置

1997年 4月 // 博士課程 設置

2005年 4月 感性デザイン学部 設置 (2学部6学科)

2022年 4月 工学部工学科5コース制へ改組

10月 創立50周年記念式典開催

卒業生および修了生数

大学院 修士： 約500名

博士： 約70名

大学 学士： 約20,000名

2. 事業推進体制と活動状況(1)組織構成

将来計画委員会（令和5年9月設置）

学長（委員長）、業務執行理事、学長補佐、学部長、
総務部長、社会連携・研究推進部長、入試部長

カリキュラム等検討部会：部会長 阿波学長補佐

- ①基本構想WG、②共通教育WG、
- ③先端工学WG、④情報デザインWG、
- ⑤社会デザインWG

教育・学習環境検討部会：部会長 金子学長補佐

- ①キャンパス適正化WG、②八日町キャンパスWG

※進捗状況、検討結果等については、全学集会、部長会、教授会、
理事会・評議員会等へ報告・協議、意思決定

2. 将来計画委員会の設置と活動(2)活動履歴

(変更交付申請書での記載内容から)

- 1-①令和5年 9月 改組に係る将来計画委員会発足
- 1-②令和5年10月 各検討事項に関する部会の発足
- 1-③令和5年11月 **改組後の学部数を2学部に変更を検討**
- 1-④令和6年 1月 中心街キャンパス整備に向けた協議を実施
- 1-⑤令和6年 1月 キャンパス内建築調査
- 1-⑥令和6年 4月 キャンパス構想案の作成
- 1-⑦令和6年 7月 学科名称等の仮決定

- 1-⑧令和6年11月 **改組後の学部数を3学部に変更を検討**
- 1-⑨令和6年11月 入学者選抜方法の基本設計の検討
- 1-⑩令和7年 2月 大学・学部等名称のイメージアンケートを高校生・在学生を対象に実施
- 1-⑫令和7年 2月 各学部・学科の育成すべき人物像と3ポリシーの決定
- 1-⑬令和7年 3月 **学部学科名称等の決定**
- 1-⑭令和7年 3月 カリキュラム詳細設計・確定
- 1-⑮令和7年 3月 入学者選抜方法の詳細設計・決定
- 1-⑯令和7年 3月 文科省事前相談用資料の作成

- 令和7年 6月 **文科省事前相談用書類の提出**
- 令和7年 8月 **事前相談結果判明 「3学部とも届出で設置可」**

2.1 将来計画委員会専門委員会の設置と活動 【カリキュラム等検討部会】

主な検討内容

○令和5年度

- 改組基本方針、現状と課題の整理
- 学部学科の構成（1学部、2学部、3学部のケーススタディ）
→先端工学分野、情報デザイン分野、社会デザイン分野

○令和6年度

- 学部学科名称
- 教育研究上の目的、養成する人材像等
- 3つのポリシー、カリキュラムの基本設計
→グループ高校、県立高校へのアンケート調査とヒアリング
→教育研究後援会、CN人材育成協議会等でのヒアリング

○令和7年度

- カリキュラムの詳細設計
- 文部科学省 事前相談書類の作成、提出

2.1 将来計画委員会専門委員会の設置と活動 【教育・学習環境検討部会】

2つの可能性を視野に2つのWGにより検討

(1) **大開キャンパス適正化WG**：現在のキャンパス（大開キャンパス）でのリニューアル・更新・減築計画の策定

- 令和6年度；大開キャンパス・グランドデザインに関する0次案を策定
- 令和7年度；0次案についての意見交換会，学内現地調査等を踏まえた1次案を現在策定中

学生の授業間移動を減らすために1～3号館の教室整備・時間割工夫

(2) **八日町キャンパスWG**：中心市街地（八日町付近）に1学部+1年生（600人を想定）が異動することについて検討

→メリット・デメリット・懸念事項・解決策などを整理

八日町キャンパス計画は，地権者や協力企業，金融機関，八戸市，国土交通省などと継続的に協議・意見交換し、適宜部会に情報共有

→概算事業費を含む基本計画策定

3. 現在の工学部工学科の振り返り(支援事業申請の背景)

2022年度改組で工学部を1学科体制に改編

- 1学部1学科体制の利点

- 教育実施、運営組織やカリキュラムのスリム化
- 時代や社会の変化に対応した、分野横断的な教育プログラムの柔軟な編成が可能
 - ✓ 横断履修プログラム
 - ✓ 数理・データサイエンス・AI教育、カーボンニュートラル教育等

- 1学部1学科体制で見えた課題

- 「工学部」「工学科」だけでは、教育プログラム（具体的な学びの分野・内容）の特徴が伝わりにくい
 - ✓ 教育プログラムを特徴付ける名称の学部・学科として設置し、本学の特色や魅力を積極的に伝える事の重要性

- 地方私立工業系大学を取り囲む情勢（コロナ禍以後）

- 全国的な工学部充足率の低下傾向
 - ✓ 大都市と地方（特に東北地方）との格差拡大
 - ✓ 地方の工学系私大は軒並み定員割れ（苦戦）
- ✓ 定員の安定確保のためには、従来の工学系の枠を超えて幅広く理系・文系の受け皿となるような学部・学科の設置が最低条件

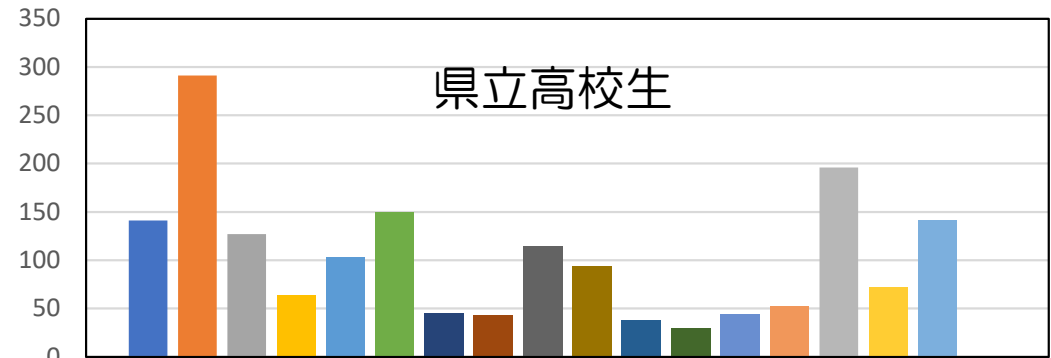
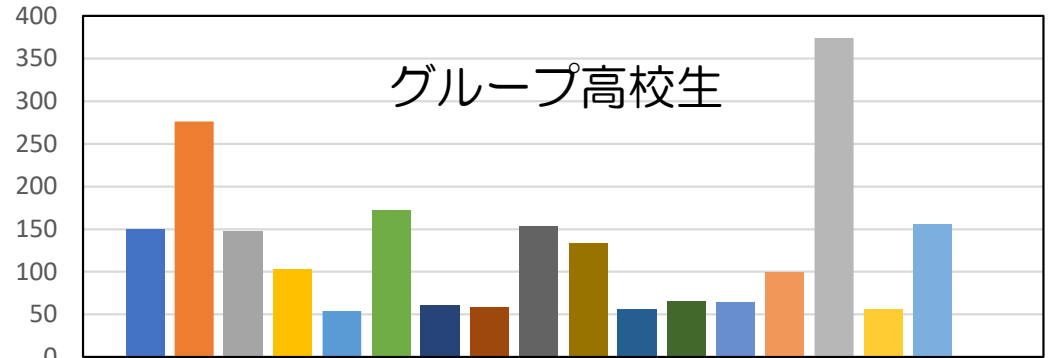
4. 学部・学科の再編

■基本方針

- ・ (地域) 社会に必要なとされる人材の育成
- ・ 「工学」×「デザイン」×「地域」という現在の八戸工業大学のコンセプトを進化させて、工学とデザインの学びを融合・発展
- ・ これからの社会課題解決に必須な「デザイン思考」の育成を核に、文系・理系といった既存の考え方に捉われることなく、地域社会とのつながりを重視した「文理融合教育」、「AI教育」、「STEAM教育」の充実・実践
- ・ 成長戦略実行計画に基づき、グリーン分野とデジタル分野を強化した新しい学部学科編成（総合工学系大学への進化）

興味のある学問分野

※回答者数は、グループ高校：867名、県立高校：683名、学問分野を3つまで選択・回答



4. 学部・学科の再編(支援1事業申請時)

- ・申請時は、現在の工学部と感性デザイン学部をベースに、工学系の一つの学部グリーン分野およびデジタル分野を強化した3学科を設置する改組を計画

【申請時計画】

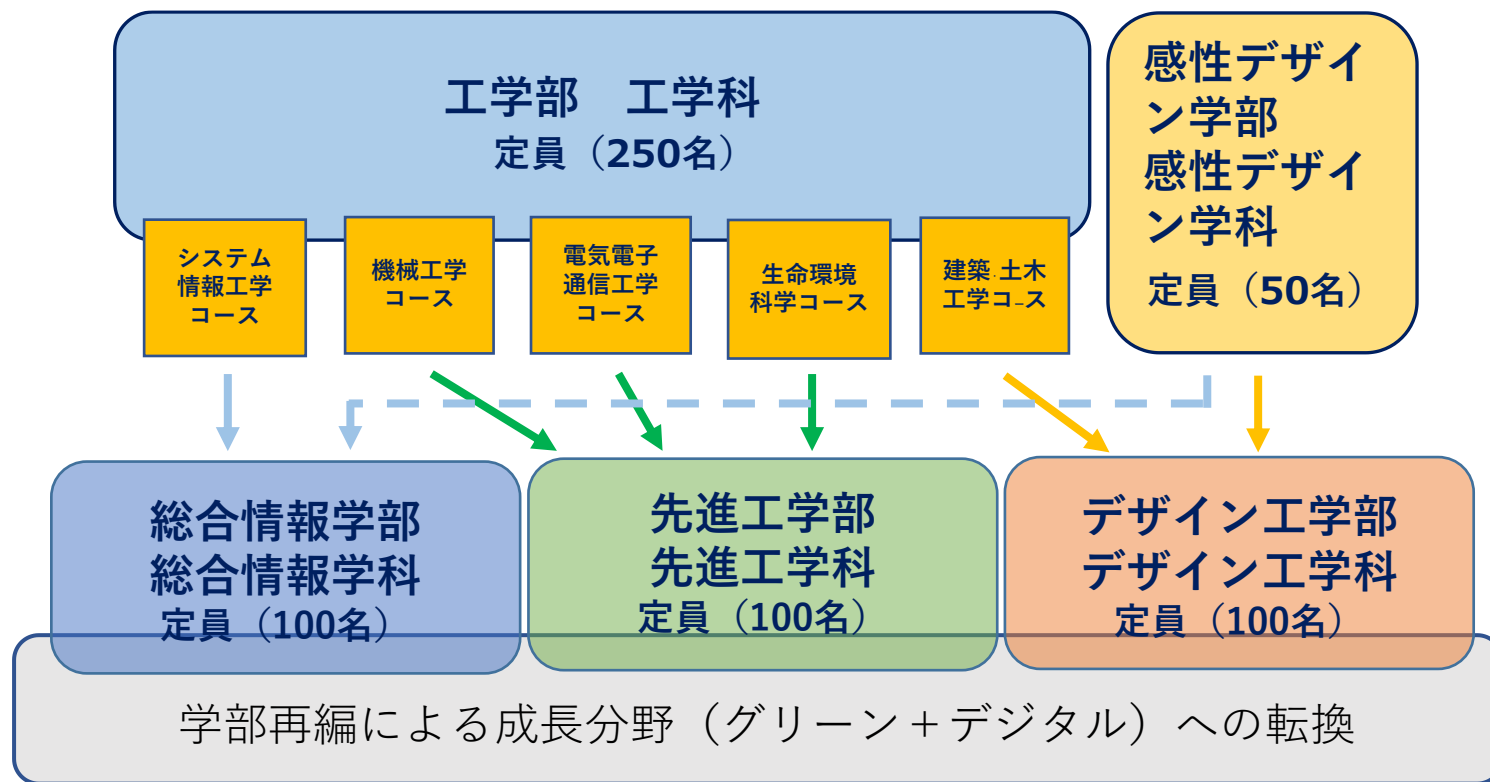
現在、本学は、工学部工学科（機械工学コース，電気電子通信工学コース，システム情報工学コース，生命環境科学コース，建築・土木工学コース）と感性デザイン学部感性デザイン学科の2学部体制となっている。本申請では、工学とデザインを高度に融合し、いずれも成長分野である**デジタル分野とグリーン分野に再整理した新しい工学部**をつくります。具体的には、機械工学，電気電子通信工学，生命環境科学を中心とした**グリーン科学技術学科（グリーン）**，建築・土木工学とデザインを融合した**社会創造学科（グリーン）**，システム情報工学とデザインを融合した**情報デザイン学科（デジタル）**の3学科体制を基本として、行政機関や産業界，高校生の要望等を調査しながらフェーズ1期間中に学部・学科名称を含めて検討します。グリーン成長分野およびデジタル分野の中核となる3学科に再編し，定員を増やすとともに，これまで本学で培ってきたデザインあるいは感性に関する教育研究資源をこれらの学科に融合した新しい人材育成を展開します。

- ・学科よりも学部である事の方が当該分野の教育研究のさらなる充実と分野の強化を幅広く周知でき，募集活動上もプラス効果が期待できることから，3学部への再編を進める

※いずれの学部・学科も設置届出の範囲での改組（学位の分野：工学）

4. 学部・学科の再編

■ 3学部3学科：「工学×デザイン×地域」の進化、多様な入口を提示（情報系とデザイン系を強化した学部構成）



ミライをつくる知性を学ぶ

総合情報学部

【総合情報学科】

(定員100名)



育成をめざす人材像

情報科学やメディア情報等の幅広いデジタル技術の基礎知識、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、高度なデジタル社会を構築・推進するために必要な新たな価値や技術を創造し実装することができる人材を養成します。

ミライを変える技術を学ぶ

先進工学部

【先進工学科】

(定員100名)



育成をめざす人材像

情報リテラシーも含めた科学と工学分野におけるグリーン技術の基礎知識、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、持続可能なグリーン社会の実現のためにグリーンIT・グリーンデバイスといった先進技術の導入や運用を推進していく人材を養成します。

ミライを描くセンスを学ぶ

デザイン工学部

【デザイン工学科】

(定員100名)



育成をめざす人材像

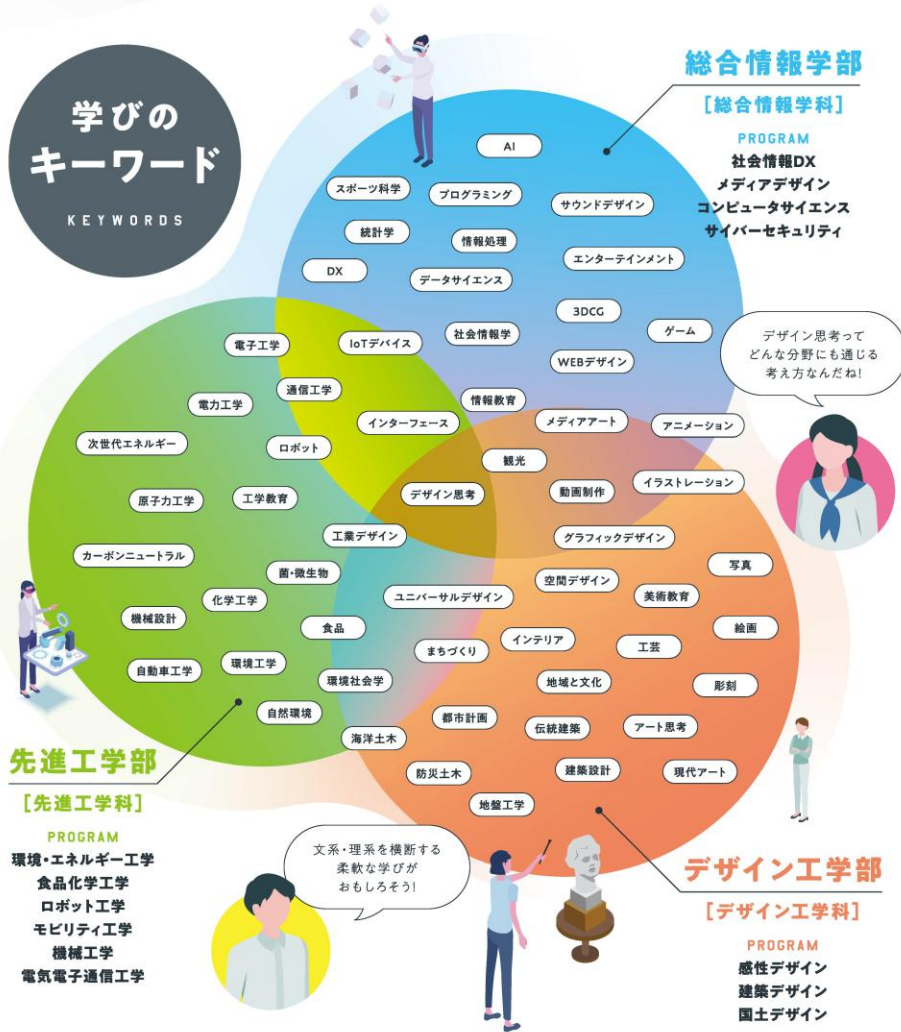
地域づくり分野におけるデザイン活動の基礎となる知識と技術、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、地域の暮らしの豊かさと多様なあるべき姿を構想する力を有し、地域社会における資源と資産・インフラの価値化と共有の実現に携わることができる人材を養成します。

#シンHIT #文理YouGo! #green_digital_design

さあ、どんなミライへ進もうか？

学びのキーワード

KEYWORDS



新学部・学科の将来像

FUTURE



ご質問事項への回答について

【質問事項 1】

○令和5年度に各学科の育成すべき人材像と3ポリシーの決定の予定が未だに「検討を継続中」とのことだが、現在までの進捗状況について説明してください。また、3ポリシーが定まらないことにより、カリキュラム基本設計や入学者選抜方法の基本設計、キャンパスの計画等、様々な計画が遅延していると思われるが、どのように解消する予定であるか説明してください。

回答 1

- 大学及び 3 学部の 3 つのポリシーはおおよそ策定済み
 - 現在は設置計画書作成に合わせ、細部を調整中
- 次に、現時点における大学、及び、例として総合情報学部の 3 つのポリシーを紹介します。

■ 八戸工業大学 教育理念とディプロマ・ポリシー

八戸工業大学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げています。これは、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。本学は、この理念を踏まえた教育目標に基づく所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についた学生に学士の学位を授与します。

- (1) 豊かな人間性と総合的な判断力
- (2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
- (3) 専門分野の基礎原理の理解と高度応用展開力
- (4) 地域社会への関心をもちグローバルな視野で物事を考える姿勢

■ 八戸工業大学 カリキュラム・ポリシー

八戸工業大学は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1. 教育課程の骨格

カリキュラムを、高校教育から大学教育に円滑に移行させ、キャリアデザインを支援するための「キャリア教育科目」、人間環境や地域・社会に対して多面的な視野から物事を捉え総合的な判断ができる力を養う「総合教養科目」、デザイン思考のプロセスの理解、ならびに情報学、工学、デザイン工学の分野を融合した学びを誘導する「共創教育科目」、専門分野の学問に求められる基盤的能力を幅広く養う「数理・データサイエンス・AI教育科目」や「自然科学科目」等の「基盤科目」、各分野における専門基礎知識・技能の修得とともに、実践的な応用・展開能力を養う「専門科目」で編成します。

2. 総合的な人間力を養成する教育の実施

「キャリア教育科目」においては、高大接続・社会接続を担う教育を実施し、さらに科学技術の地域的・社会的な役割について理解を深めます。また「総合教養科目」においては、その分野を人間科学分野、国際コミュニケーション分野、体育科学分野および総合学際分野などで構成し、学部・学科を問わないリベラルアーツを展開します。これにより、地域への理解を深めるとともに、豊かな人間性を涵養し、社会の変化に対応できる柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。

■ 八戸工業大学 カリキュラム・ポリシー（続き）

3. 数理的な思考および情報活用能力を育成する教育の実施

超スマート社会「Society5.0」に対応するための数理・情報リテラシーとAI技術・データサイエンスの基礎を学ぶ科目を全学共通として配置します。専門分野においては情報技術を高度に利活用するための力を養成します。

4. 地域社会との繋がりを重視した共創教育の実施

社会が抱える課題の解決のために、デザイン思考の基礎について学ぶための科目を配置します。また「共創教育科目」における情報学、工学、デザイン工学を融合した実践演習、さらに「専門科目」においても地域と連携した課題解決型学習(PBL)、アクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、持続可能な地域社会づくりへの意欲と責任をもって物事を考えることができる能力ならびに主体性を養成します。

5. 専門分野の基礎知識・技能を理解・修得するための教育の実施

学部・学科の専門基礎知識・技能を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。講義と演習を組み合わせた授業、根幹となる部分の繰り返し学修を取り入れた授業などを展開し、これにより専門分野の基礎知識・技能を理解・修得させる教育を実施します。

■八戸工業大学 カリキュラム・ポリシー（続き）

6. 専門分野の基礎知識・技能を実践的に応用・展開展開できる力を養成する教育の実施

実践的な力を養うために、少人数ゼミナール、実験・演習・実習科目を重点的に配置します。自ら考えて纏めたことを発表・表現する授業や、体験・気づき・省察サイクルを取り入れた授業を展開します。また、身につけた専門知識や技能を統合し、論理的な課題解決を通じて新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業研究」を全学必修とします。さらに、これらの科目群によりチームワーク力やリーダーシップ力も養成します。

7. グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育の実施

学部・学科を問わない「総合教養科目」を中心に、「専門科目」においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、異文化と多様性を理解しつつ、グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成します。

学修成果の達成度は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力に基づいて具現化した複数の修得因子によって評価し、学生が自ら確認できるよう配慮します。

■八戸工業大学 アドミッション・ポリシー

八戸工業大学は、建学の精神である「正己以格物」（己を正し以て物に格る）に基づいた自己思考能力を育むカリキュラムにより、基礎知識や専門知識だけにとどまらず、将来的に地域を牽引していくことができる総合力を備えた次世代のリーダーにふさわしい人材を養成しています。また、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げており、高度な専門知識を備え高度な応用展開力をもつとともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ社会の担い手の育成を目指しています。

これらを実現するため、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有しており、本学が進める教育研究活動に強い関心があり、さらに自らを向上させようとする意欲を持つ人を、多様な選抜制度により受け入れます。

本学の入学者選抜では、志願者の学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を把握し、学部・学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性などを判断するため、入試形態ごとに個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、小論文、面接などを組み合わせ、志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価します。

3 学部 の 3 つ の ポリシー

- 主として，総合情報学部の例を紹介
 - 詳細は別紙にて説明

□総合情報学部 総合情報学科 ディプロマ・ポリシー

総合情報学科では、高度なデジタル社会を実現するための学びを基礎とし、社会情報DX、メディアデザイン、コンピュータサイエンス、サイバーセキュリティのいずれかのプログラムにおいて所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（情報学）」の学位を授与します

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の持続可能な発展に貢献できる力
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢
- (D) 情報学における基本的な専門知識と応用・展開力の素養
- (E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力
- (F) 北東北地域における科学技術の動向への関心

□総合情報学部 総合情報学科 カリキュラム・ポリシー

総合情報学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1. 教育課程の骨格

カリキュラムを、「キャリア教育科目」、「総合教養科目」、「共創教育科目」、「基盤科目」、「専門科目」で編成します。ディプロマ・ポリシーと教育課程との主な関係は以下のようになります。

教育課程 (科目区分・分野)	ディプロマ・ポリシー					
	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
キャリア教育科目	○					
総合教養科目（人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際）	○		○			
共創教育科目		○				○
基盤科目（数理・データサイエンス・AI教育、自然科学）		○				
専門科目				○	○	○

2. 教育課程の編成

（1）キャリア教育科目：高校教育から大学教育への円滑な移行と将来のキャリアプランニング、さらに専門分野の地域的・社会的な役割を理解するとともに、倫理観・規律性、社会的責任感を涵養するための科目を配置します。

（2）総合教養科目：北東北を中心とした地域社会についての包括的な理解を含めた幅広い視野と教養、コミュニケーション・スキルを養うため人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際 of 4 分野にわたる教養科目を配置します。

（3）共創教育科目：課題解決能力の基礎となるデザイン思考のプロセスを理解するとともに、地域社会との繋がりを重視した実践演習の科目、さらに文理融合・分野横断型の学びを誘導する科目を配置します。

（4）基盤科目：専門分野の基盤となる能力を養う科目を配置します。数理・データサイエンス・AI教育科目は、数理と情報のリテラシーを修得するとともに、AI技術、データサイエンスの基礎力および実践・応用力について学ぶための科目を配置します。自然科学科目は、物理や化学、脱炭素・環境、生命などの自然科学、実験に係わる科目を配置します。

（5）専門科目：高度なデジタル社会を実現するための学びを基礎とし、社会情報DX、メディアデザイン、コンピュータサイエンス、サイバーセキュリティのいずれかの分野についての知識と学力を修得し、それらを応用・展開できる能力を修得することを目的に基礎分野と応用分野から構成される科目を配置します。さらに企業などにおけるインターンシップ、より総合的な学習や特定領域における研究活動を行うための卒業研究を配置します。これらの科目群を通じて総合的な判断力や継続的な学習力、チームワーク力、リーダーシップ力、社会の変化に対応できる柔軟な思考力および課題解決能力を養成します。

3. 教育課程の実施

（1）将来の進路や取得可能な資格の希望に応じ、履修上の区分として社会情報DX、メディアデザイン、コンピュータサイエンス、サイバーセキュリティの各プログラムが設けられ、その学習・教育到達目標を達成するための修了要件を設定します。

（2）情報学関連分野の横断的な学習を可能とするため、学習の柱となる主プログラムに加えて、希望に応じて副プログラムの専門科目も履修できるよう配慮します。

（3）1学年は各プログラムの共通となる科目を配置し、2年進級時にプログラムを決定します。

（4）必修科目・選択必修科目・選択科目を適切に配置し、技術者として必ず身につけるべき共通の素養と、自らの興味・関心に基づく多様な分野の知識をバランスよく修得できるよう配慮します。

□総合情報学部 総合情報学科 カリキュラム・ポリシー（続き）

（５）共創教育科目、基盤科目および専門科目においては、理論・知識を学ぶための講義科目と、学んだ知識の習熟および課題発見力・解決力の醸成のための演習・実験科目を連携的・系統的に配置します。

（６）実験・実習・演習などの科目を通じて実践的な教育（PBL）を充実させ、講義で学んだ知識を活用し、さらに理解を深めて応用力を養うとともに、新たな課題を自ら発見し解決する課題解決能力を養成します。これらの科目の修得の過程で自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップ力が身につくよう運営します。

（７）学生の主体的・能動的な学びを促進するため、演習・実習科目はもとより講義科目についてもアクティブ・ラーニングを積極的に導入します。

（８）ネットワーク環境やサーバー環境などを充実させることで、大学での授業・教育に加えて、自宅での自律的な学習においてもICT機器の積極的な利用を促進します。また、通常の授業でも視聴覚機器を積極的に活用し、理解度の向上に努めます。

（９）学習・教育到達目標に対応したカリキュラムマップ・ツリーを明示するとともに、学生の習熟度・理解度に応じた学修支援を推進します。

4. 学修成果の評価

授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。

□総合情報学部 総合情報学科 アドミッション・ポリシー

総合情報学科では、総合情報学科は、総合的なデジタル技術の基礎知識・技能を踏まえ、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力、高度なデジタル社会を構築・推進するために必要な新たな価値や技術を創造し実装することができる能力、論理的・創造的思考力やコミュニケーション能力を身につけ、異なる分野の人とも協調して課題を発見・解決に、倫理的責任を持ってあたることができる人材の育成を目指しています。

総合情報学科は、デジタル社会、メディアデザイン、コンピュータサイエンス及びサイバーセキュリティの4プログラムの教育体制を取っており、総合情報学の目的ならびにそれぞれのプログラムの学びに強い関心があり、これらの能力を身につけて地域や社会で活躍したいという目標を持って主体的かつ自律的に取り組む意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目に関する基礎的な知識・技能を有している人を、多様な選抜制度により受け入れます。

□先進工学部 先進工学科 ディプロマ・ポリシー

先進工学科では、工学分野におけるグリーン技術を基礎とし、環境・エネルギー科学、生命・食品工学、ロボット工学、モビリティ工学、機械工学、電気電子通信工学のいずれかのプログラムにおいて所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の持続可能な発展に貢献できる力
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢
- (D) 工学における基本的な専門知識と応用・展開力の素養
- (E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力
- (F) 北東北地域における科学技術の動向への関心

□デザイン工学部 デザイン工学科 ディプロマ・ポリシー

デザイン工学科では、豊かな暮らしと持続可能な地域づくりのための学びを基礎とし、感性デザイン、建築デザイン、国土デザインのいずれかのプログラムにおいて所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し「学士（デザイン工学）」の学位を授与します。

(A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野

(B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の持続可能な発展に貢献できる力

(C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢

(D) 専門分野におけるデザイン活動の基礎となる知識と技術の応用・展開力の素養

(E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力

(F) 北東北地域における科学技術の動向への関心

ご質問事項への回答について

【質問事項 2】

○中心街キャンパス移転に関して、「キャンパス内の計画を優先」とあるが、キャンパス移転の実現に向けた計画に遅延が生じている懸念があるため、現在までの進捗状況について説明してください。また遅延が生じている場合はどのように解消する予定であるか説明してください。

回答 2

- キャンパス移転は可能性の一つとして挙げたものであり、実際には複数の案について検討を重ねた結果として、現在は現行キャンパス（大開キャンパス）での整備計画を進めている状況です。
- この経緯について、以下の資料で説明いたします。

5. キャンパス計画 (1)背景

- 18歳人口が国内で最も減少している北東北地域に立地している本学としては、学生確保のためには改組に伴いこれまで以上のインパクトのある手を打つ必要性を認識(大学名称の変更の議論も)
- 創立50年を迎えキャンパスの老朽化も顕在化してきたことから、キャンパス移転(立地環境、通学の利便性・通学範囲の拡大を考慮)の可能性模索(八戸駅周辺、中心市街地)
- 特に、中心市街地においては、市街地活性化の観点から国土交通省の補助金(都市構造再編集集中支援事業)が活用できる可能性があり、苦しい財務事情の中でも検討の価値があるのでは？
- ただし、八戸市等の自治体や地権者、学生数の推移など、不確定要素も多々あることから、「現行キャンパスのリニューアル」と「キャンパス移転」とを並行して検討(前述済み)

5. キャンパス計画 (2)昨年度～今年度前半

- 令和6年度に概算事業費・資金計画を含む基本計画を策定
- 事業費がその時点で60億を超え、その後の資材高騰、人件費高騰などもあり、国交省都市構造再編集集中支援事業に採択されたとしても、30億円を大きく超える投資が必要となることが判明。
 - 単独での実施は極めて困難。八戸市の協力が得られるか？
 - 市内での移転で、学生確保が長期的に可能か？
 - 維持費を捻出できるか？
- 学生確保および八戸市の協力体制の不透明さが払拭できないため、現時点では大開キャンパス・リニューアルに注力することとした

5. キャンパス計画 (3) 今後の予定

○キャンパス整備基本計画

【検討状況】

「八戸工業大学キャンパス整備基本構想」及び「八戸工業大学 学部学科再編(案)」を基本に、整備方針やその他の内容を具現化するべく、動線、ゾーニング、インフラ、建物構成、建物内諸室の配置等を取り纏め、基本設計の前段階となる「八戸工業大学キャンパス整備基本計画」を策定中

【今後の見通し】

<令和7年度>

- * ~12月まで : 学内での意見調整(将来計画委員会, 教授会, 理事会)
- * 12月理事会 : 基本計画策定にあたっての基本方針まとめ
- * 2月理事会 : 基本計画(案)について協議
- * 3月理事会 : 基本計画(案)について審議・承認

<令和8年度> 基本設計・実施設計の策定、工事契約(着工)

ご質問事項への回答について

【質問事項 3】

○キャンパス移転以外に、地域の企業や自治体との連携を強化する取組等があれば、説明してください。

回答 3

地域の企業や自治体との連携を強化する取組について説明いたします。

6. 地域の企業や自治体との連携

連携名称	構成	目的・内容
八戸産学官連携推進会議	八戸市 八戸市高等教育連携機関 八戸商工会議所	連携を通じた教育プログラムの構築・実施
八戸工業大学教育研究後援会	青森県工業会、県内企業、金融機関、同窓会・保護者会等	教育プログラムの地域還元の提言・意見徴収
グリーン HITカーボンニュートラル人材育成協議会	八戸市、近隣自治体、青森県工業会、県内企業、教育機関等	カーボンニュートラルの教育プログラムの構築、地域の環境教育の支援
デジタル 青森県DX推進ラボ	青森県、産業支援機関、高等教育機関、金融機関等	DX普及、DX推進の基盤となる人材の育成・確保に関わる支援

ご質問事項への回答について

【質問事項4】

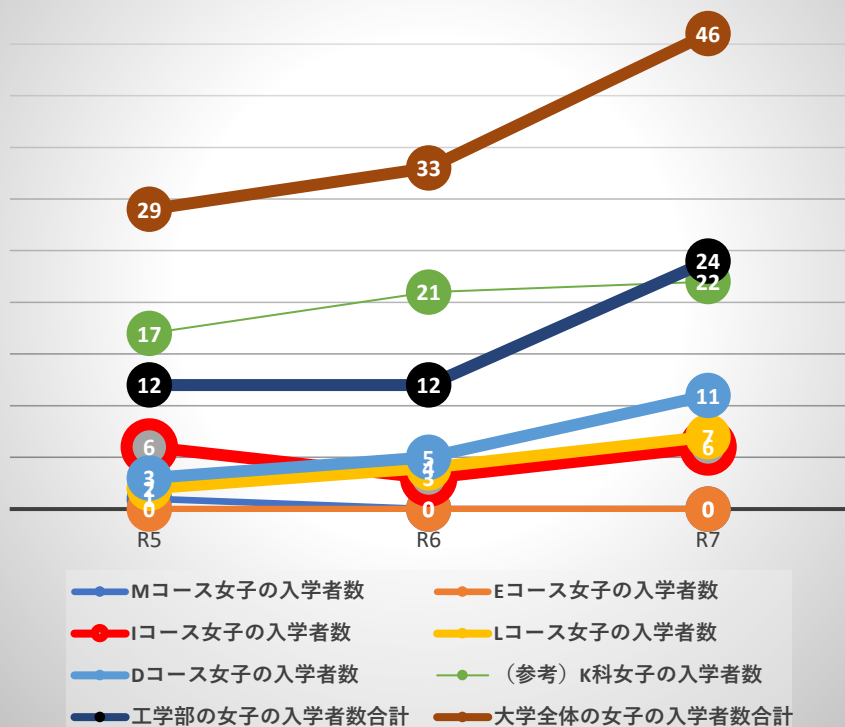
○HITリケジヨLABOの活動を起点に学生募集において女子枠を設け周知を進めた結果、学校全体での女子学生数が増加傾向にあるが、これらの取組が女子学生の志向・志望へ与え得る影響について、実施した実感を説明してください。さらに女子学生の確保に向けて実施している取組があれば説明してください。

回答 4

- 女子学生の増加傾向と本学における取り組みには相関があると考えております。
- 実施担当者の声をお届けします。
- 今後の取り組みについても紹介いたします。

7. HITリケジヨLABOの活動

女子の入学者数の推移



OR6年からR7年度の大学全体の女子入学者の増加（33から46名）は工学部（12から24名）の増加に拠る

○【女子特別枠】は「学校推薦型選抜（指定校制）工学部女子特別枠」としてR7年度から工学部の入学者から適用された。

⇒各高校へ入試部からご依頼時に特記事項として「学校推薦型選抜（指定校制）工学部女子特別枠」を明記したことが影響。

⇒【女子特別枠】入学者は全9名（Iコース3名、Dコース6名）

【女子特別枠】を利用せずに、HITリケジヨLABOの活動の実施高校の中から特に入学者が増加した高校の女子在校生数と実施内容

近隣および県内の高校	2025年入学1年	2024年入学2年	2023年入学3年	2022年入学4年	実施内容	イベント対象学年か？
八戸工大二高	4	1	2	0	複数回チラシ、冊子配布、2023/12/27 講演と実験2年生対象	○
八戸東	3	0	1	0	複数回チラシ、冊子配布、2024/11/20 1・2年生対象の講演、校長対話	×
千葉学園	1	0	0	0	複数回チラシ、冊子配布、校長面談	—
青森西	1	0	0	1	複数回チラシ、冊子配布、校長教頭面談	—
明の星	1	0	0	0	複数回チラシ、冊子配布のみ	—
弘前南	1	1	0	0	複数回チラシ、冊子配布、2023/8/9 実習 1, 2年生	○

実際に実施した現場担当者の感想・考察

HITリケジヨLABOの活動である講演、実験及び冊子配布、さらに市内の高校ほぼすべてに2年間、女子向けリケジヨイベントのチラシを複数回全員に配布などの活動を実施。上表の様に、特に、八戸東、八戸工大二高、八戸工業高校からR7年度の入学者が増加。リケジヨの活動以外にも、経済的理由（実家から通学、内部進学制度）から保護者の理解も得やすいことなど、増加の要因は複数考えられる。たとえ【女子特別枠】や【内部進学制度】を利用した場合であっても、HITリケジヨLABOの活動が工学部に進学との判断に繋がっている可能性もある。今後も継続的に活動を実施し、データを積むことで増加の要因が明確になると思われる。

女子学生確保に向けた活動

女子学生自身の活動を組織化（生き生きした女性の活躍ぶりを学内外にアピール）

→他大学，高専との交流で芽生えた主体的活動への意識

2025年5月、八戸工業大学に、女子学生コミュニティが誕生。

その名も...

『 **Girls Active LABO** 』 ガールズ アクティブ ラボ

通称... 『 **GAL's** 』 ギャル(ス)！

ぜひ、ギャルと呼んでください！ 命名：GAL'sメンバー学生

GAL's活動の目的は大きく2つあります。

😊 - GAL'S - 活動の目的1 | 八工大女子の交流機会の創出

1つ目の目的は、『通常授業では出会う機会のない女子学生同士が学年・学科・コースの垣根を越えて交流する機会を創出すること』です。
新たな繋がりを広げて、不安や悩みを共有し、励まし合う時間が増えることで、実りある大学生生活を送る環境づくりを目指します。



■今年度は、広大なキャンパスの敷地内にある畑を耕し、「農園活動」を行っています。
活動には、コースが異なる1年生・2年生・4年生が参加し、時には男子学生や農園作業に詳しい教職員にお手伝いをいただきながら、野菜やフルーツを育てています。猛暑が続く中での草取りは大変でしたが、大きなスイカを取れた時は喜びもひとしおでした🍉

学園祭では、収穫した野菜の販売を予定しています！！



😊 - GAL'S - 目的2 | 理工系大学の魅力を発信

2つ目の目的は、『理工系大学の魅力を発信すること』です。

理工系に進学する女子学生が少ない傾向にあるため、大学で学んでいる知識やスキルを活かして、小中高生に理工系分野への興味や関心を高めてもらうための活動を行っています。8月は本学“オープンキャンパス”で女子高校生向けに相談ブースを出展したり、岩手村田製作所久慈工場で行われた“サイエンス教室”にも参加しました。

✧ オープンキャンパス ✧



■ “サイエンス教室”は、小中学生及び保護者の皆さまを対象として、岩手県が主催したイベントで、本学は、「一枚の紙を使って建築家体験！」というタイトルでブースを初出展。

参加した親子は、Girls Active LABO が考案した一枚の用紙の折り方を変えて、折り方による強度の違いを確認する実験に挑戦しました！

➡リーダ― 学生からのコメント ----- タイトルや実験内容を考案！ /-----

八戸工業大学 大学院 工学研究科 機械・生物化学工学専攻 1年生

大坂 奈菜穂 さん（八戸工業高等専門学校 卒業）

✧ サイエンス教室 ✧



「小中学生という幅広い年齢層に向けて、全員が楽しみながら工学や科学の魅力を感じられるように、アイデアを出し合い試行錯誤を重ねたことは難しさもありましたが、大きなやりがいとなりました。当日、参加してくれた方々が楽しんでいる姿を見ることができ、とても嬉しかったです。また、小中学生ならではの新鮮な発想に触れることができ、自分自身にとっても貴重な経験となりました。」

8. 学生確保のための取り組み(1)

1) 例年、地域の中学校、高校の学習支援を通して大学の広報を実施

令和6年度実施件数

- ① 中学、高校の総合的な学習の時間への講師派遣、出前授業の実施。
中学校3件（八戸市内）、高校50件（青森43件、岩手6件、秋田1件）
- ② 大学見学会の受入れ
中学校1件（八戸市内）、高校9件（青森4件、岩手5件）
- ③ 体験授業
中学校19件（青森県内）、高校15件（青森県内）

2) 八戸市「企業・大学見学会事業」への参画

NPO 地域活性化教育支援ネットワーク（REN）が主導となって実施している八戸市内の「企業・大学見学会事業」に参画。

中学生が地域企業や地元大学等の状況や魅力に触れるために、中学生による地域企業、地元大学の見学や体験学習の教育支援事業。

令和3～4年度は、八戸市内2～3校に対応。

令和5年から八戸市内10校、階上町2校に対応。

8. 学生確保のための取り組み(2)

3) 新たな受験層への働きかけ

- 令和5年10月～現在 STEAM教育や文理融合カリキュラムの研究・導入
- 令和5年 9月～現在 HITリケジョLABOの活性化：JST採択事業（令和5年度～令和6年度）として活動を顕在化させ、中高生への啓発活動を主に活性化
 - 令和7年度からは本学の経費で事業を継続中
- 令和6年 4月～現在 留学生獲得の検討
 - 特定技能実習取得のビジネスモデルを継続
 - 令和7年度から留学生獲得に向けたタスクフォース設置
 - ✓ 日本語学校で学ぶ留学生の見学会開催
- 令和6年 9月～現在 通信教育課程の導入検討：通信教育課程について他大学の調査及び本学での需要について検討

中学生向けの見学内容の例

令和7年度 八戸市立根城中学校大学見学会

実施日：令和7年10月3日（金） 11:50-15:00

時間	内容	会場・担当者等						
11:50	大学到着	八戸市立根城中学校 2年生 145名						
11:50-12:10	概要説明	会場：3-103講義室（説明：社会連携・研究推進部 推進監 大室康平 准教授）						
12:15-13:00	昼食	3-103講義室 ほか						
13:10-14:00	体験講義	機械	電気	システム	生命環境	建築・土木	感性	基礎教育
		プロジェクト実習におけるロボット製作について 太田勝 教授 5-203	電気電子通信工学での学びと将来 越田俊介 教授 4-110	デジタルで未来を創る！中学生のためのロボツアー 伊藤智也 教授 楠本まどか 講師 8-103	ミニ講義「グリーンケミストリー ～環境にやさしい化学～」 ・チーズ、ビール製造ミニプラント見学 小林正樹 教授 10-303	建設の仕事と技術のあれこれ 鈴木拓也 教授 7-206	菱刺しは南部のダイヤモンド 川守田礼子 教授 2-204	もの見え方と性格 佐藤手織 教授 1-314
14:05-14:55		STEAM女子推進・支援室による講演 「理系進路のススメ」 講師：鮎川恵理 教授 場所：3-103講義室						
15:00		解散						

9. 今後の活動

- デジタル分野とグリーン分野の人材育成力強化に向けた設置計画書作成を進めるとともに、**学生確保を強く意識した計画の精査**を同時に行い、長期にわたり学生充足が可能となる魅力的な理工系大学作りを行います。
- **新たな大学に相応しいキャンパス整備（施設・設備の整備）**を計画的に進め、ハード面での訴求力向上にも努めます。
- 学長のリーダーシップにより、大学運営体制、教員組織、教員評価方法、などを円滑かつ迅速に改め、教育研究面での大学の強靱化を目指します。
- 北東北を中心として広く東北地方の高校や自治体等との連携を更に押し進め、**持続可能な地域社会実現に不可欠な大学としての存在感・信頼度**を高めます。
- 教職員が一丸となって「少子化」の荒波に立ち向かうため、それぞれが互いに信頼しあい尊敬しあいながら業務に当たり、持てる力を十分に発揮できる体制「チーム八工大」を構築します。